

2024 年度 昭和女子大学 大学院入学試験 2 月期 生活機構研究科 人間教育学専攻 修士課程 (外国人留学生入試)	氏名						
小論文 問題用紙 (1 / 1)	受験番号						採点

以下の2問の中から1問を選択し解答しなさい(800字以内)。  
解答用紙の【 】に、選択した問題の記号を記入する。

【A】学校は、他の社会領域に比べると男女平等な場であると考えられています。かつて、日本の学校では、式典や行事の際に、合理的な理由なく男女別に並べせたり、男女を分けて前後の順番が生じる場合は男子を優先したりする慣習がありました。さらに、クラスの委員や生徒会・児童会の役員などを決める際には、リーダー役は男子で、サブとなるのは女子という、暗黙のうちの役割分担が当然のようにおこなわれていました。しかし、近年は合理的な理由なく男女を分けることはしないというのが原則になっており、性別にかかわらず、組織のリーダーが決められるようになってきています。

しかしながら、卒業後の社会に目を向けると、2023年のジェンダーギャップ指数の世界順位において、日本は過去最低を示しており、中国や韓国に比べても低い結果となっています。

学校では、教育における男女平等を進めているにもかかわらず、日本社会におけるジェンダー格差がなかなか縮まらないのはなぜでしょうか。また、社会におけるジェンダー平等を進めるために学校教育の中でどのような取り組みが考えられるでしょうか。

具体例をあげながら論述しなさい。

【B】日本においては、コロナ禍を契機として、学校教育現場におけるICTの活用が進みました。一方、乳幼児を対象とした保育の現場では、乳幼児に直接ICT機器を使わせることよりも、保育者の業務負担の軽減や、保護者との連絡のためのICTの活用が進められています。学校現場と、保育現場におけるICTの活用方法の違いには、幼児期と児童期以降の発達的特徴の違いや、保育に加えて子育て支援機能を担う保育施設と、教育の場としての学校とのシステムの違いなどが関係していると思われます。

幼児期の発達や、保育施設の機能の特徴をふまえたうえで、今後、保育現場におけるICT活用にはどのような可能性が考えられるでしょうか。また、幼児期の保育の中に、ICTを取り入れていくにあたって、考えておかなければならない課題には、どのようなものがあるでしょうか。

具体例をあげながら論述しなさい。